

富山県誕生百年

〓 5月9日記念式典 〓

知事式辞要旨

五月の風さわやかに薫る今日、ここに富山県の記念すべき置県百年の日を迎え、富山県置県百年記念式典を挙行できますことは、まことに慶びにたえないところであります。百十一万県民の皆様とともに、この佳き日を心から祝いたいと存じます。

顧みますれば、明治四年廃藩置県が行われてのち、幾たびかの変遷を経て、明治十六年五月九日、現在の富山県が石川県から分離して誕生いたしました。以来、今日まで明治、大正、昭和の三代にわたり、私たち富山県民は厳しくも美しい県土の上に、政治、経済、社会、文化のあとを刻みながら、流れてやまぬ一世紀の歴史を築いて来たのであります。

今、この記念すべき日に、波乱に満ちた百年の星霜を静かに回想し、そしてまた、新しい時代を展望するとき、私たちに課せられた使命はまことに重かつ大なるものがあります。

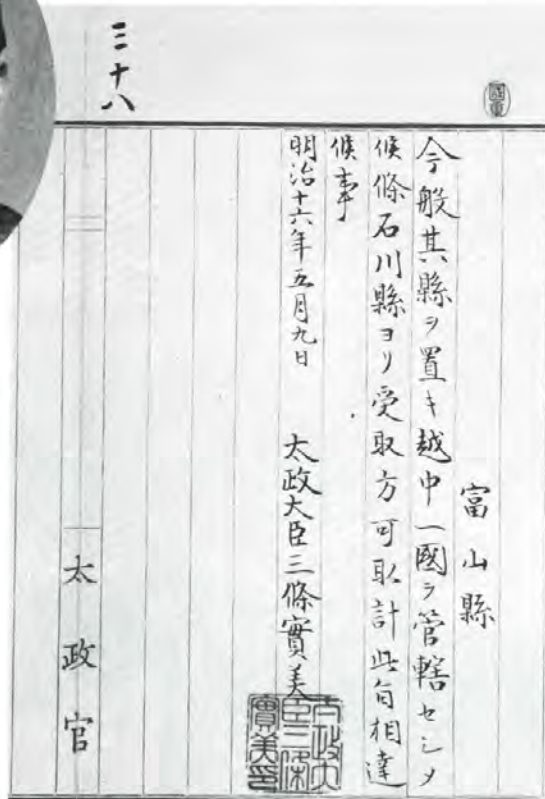
地域社会に対する期待がかつてない高まりをみせている「地方の時代」を迎え、地域の文化が大きく花開こうとしております。このような時代の潮流のなかで、富山県が新世紀へ船出するに当たり、私たちは、県民の総意のもとに策定された富山県民総合計画を指針として、新たな飛躍を期しているところであります。

激動と混迷を続ける厳しい情勢のなかで、県づくりの前途は決して平坦ではありません。

私たちは、県民のすべての参加と連帯のもとに、勇気と情熱をもってあらゆる困難を乗り越え、輝かしい明日の富山県を築き、次の世代へと引き継いでいくことを、固く心に期するものであります。おわりに、改めて富山県の礎を築きあげられた先人へ、限りない敬意と感謝の念を捧げますとともに、ご臨席の各位をはじめ、県民の皆様の一層のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げる次第であります。



初代県令 国重正文



和官内書 第五九号

太政官

富山県を置き、越中一國を管轄させることになったので石川県から引継ぎを受けるよう、太政大臣より通達された文書

~~~~~

明治16年5月9日に富山県が石川県から分県して以来、昭和58年5月9日でちょうど百年。

この記念すべき日を県民の皆さんとともに祝うとともに、本県の良き歴史と伝統を生かし、新しい時代への限りない発展を願って、富山県置県百年記念式典が富山県民会館で開催されました。

この式典の様相を写真を中心に紹介します。

~~~~~



先人の努力と英知をしのぶとともに、新しい時代への限りない発展を願って行われた置県百年記念式典



「未来をひらく県民の決意」を力強く宣言する青少年の代表



式典で、お祝いのごとばを述べる中国遼寧省の全樹仁省長



富山県の発展に功績を挙げたみなさんを特別表彰



力強く作文を朗読する荒木俊則君



置県百年を記念してつくられた「富山県讃歌・ふるさと富山」の合唱

富山県讃歌「ふるさと富山」

一、立山は ふるさとの山
 天翔ける ふるさとの島 大鷲よ
 北アルプスの 澄んだ空は
 よろこびの日も
 苦しい日にも 瞳に浮かぶ
 ふるさと富山 ふるさと富山
 この歌を 空へ放そつ

二、日本海 ふるさとの海
 鳴り響く ああ海鳴りは 子守り唄
 強く生きよと 波の声は
 おさない日から
 世にたついまも 心に響く

三、海山に ふるさとの幸
 輝ける 豊かな歴史 わが郷土
 いま新しい きよつゆの栄え
 わが子に孫に
 未来にのこす 蒼くに燃えて
 ふるさと富山 ふるさと富山
 この歌を 明日へ放そつ

歌よ ふるさとの明日 翔けめくれ
 ああ わが富山 ああ わが富山
 とわに開ける わが富山



置県百年を祝い、富山市城社大通りで行われた祝賀パレード



祝賀パーティーで中国科学院からじゃ香鹿のはく製がプレゼント

式典の内容

序

開式の言葉

(式典実行本部長)

「君が代」斉唱

式辞

(富山県知事)

議長挨拶

(富山県議会議長)

来賓祝辞

破 (二転してドラマの世界へ)

過去

(ふるさとかがやく忘れ
得ぬ人々)

現在

(置県百年記念特別表彰)

未来

(明日をつくる子供たち)

急

未来をひらく県民の決意

(富山県青少年代表)

富山県讃歌合唱

「ふるさと富山」

閉式の言葉

祝賀パレード

祝賀パーティー

置県百年特別表彰者のみなさん

(敬称省略)



内藤 友明



島崎藤左エ門



伊東 森作



彼谷 芳三



卯尾田みど里



常田 政信



草野 久也



笹島 英樹



山田 伊作



竹平政太郎



稲塚権次郎



佐伯 ゆき



大島 文雄



豊田 文一



佐伯 文蔵



高野 由郎



吉田 忠雄



橋 直治



金井久兵衛



進野久五郎



大田榮太郎



藤井 宗清



高田ヨシイ



堀 健治

●特別表彰団体

近畿富山県人会

富山県人会連合会

(社)ブラジル富山県人会

富山県花卉球根農業協同組合



山本 儀一



岡島 正平



植木 忠夫



谷口 乗麟



河上 喜一

未来をひらく県民の決意

私たち富山県民のころは、美しく、また厳しい自然、風土の中で培われ、長きにわたり、受け継がれてきました。今、未来をひらく県づくりにあたっては、このころを基本として進めることが大切です。

その一つは、誠実で努力をおしめぬ気質、積極進取の気風です。この優れた資性をたゆみなく注ぐところに、本県のたくましい未来があります。

また一つは、こまやかな人情、広い人間愛のころです。今日の物質文明に、この心の温かさを満たすとき、生きがいのある、幸せな県民生活がひらかれます。私たちは、このような真の福祉の道を求めていきます。

この二つのころの上に立つて、私たち県民は、本県の新しい世紀に、次の目標を掲げ、その実現のために、こぞ努力します。

— 私たちは、明るい、生き生きとした健康とスポーツの県をつくります。

— 私たちは、自然を愛し、生活に潤いを与える花と緑の県をつくります。

— 私たちは、創造性豊かに、活力に満ちた科学と文化の県をつくります。

富山県置県百年の記念の日にあたり、以上のことを、県民の決意として、宣言いたします。

ふるさと富山は、いま、新しいイメージ。

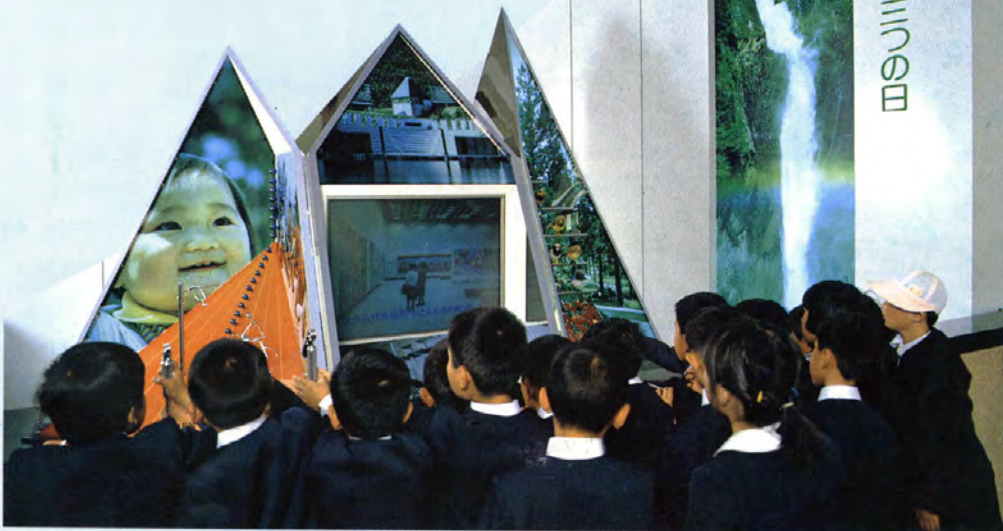
日本海を抱くように湾曲している日本列島。富山県は、ちょうどその中心に位置しているように見えます。視点を変えて見ると、今までにげなく思っていたことも新鮮に感じられます。



日本の中心富山県

めざそうみの日

富山県民総合計画でうたわれた二十一世紀への三つの挑戦をテーマに富山県の将来を展望します。



私たちのふるさと富山県。置県百年を迎えたいま、新世紀に向って新しいふるさとを創造していかなければなりません。

そのためには、私たち1人1人の行動によって、新しい富山県のイメージづくりを進めることが大切です。県でも、このイメージづくりを積極的に推進してい

ますが、その一環としてこのほど県庁正面2階に新しいディスプレイが完成しました。

「飛翔」をシンボルテーマとする新しいディスプレイは、2つの構成からなり、来庁者の視覚に強く訴えるとともに、適度な参加性をもつものです。来庁の折には、ぜひご覧ください。